



4.17撮影

# 雪崩・地すべり 研究センターたより

第80号  
2018.7月発行

Snow Avalanche and Landslide Research Center, Erosion and Sediment Control Research Group

主な記事 ・今年の融雪地すべりと雪崩の発生状況 ・トピックス ・平成30年度の研究課題 ・転入者あいさつ  
・平成30年度メンバー ・ニュートンのリンゴの木 ・庁舎の表札

## 今年の融雪地すべりと雪崩の発生状況

### 1. 新潟県、長野県の融雪地すべり発生状況

新潟県と長野県の過去10年間における1~4月の融雪地すべり発生件数を図1に示します。H30年の1~4月の地すべり発生件数の合計は新潟県が19件、長野県が2件で、過去10年間では新潟県がH23, H22に次いで3番目に多かったものの、長野県ではH28, H29に次いで3番目に少ない状態でした。月別では新潟県が4月で16件と最も多く、長野県は4月のみ2件の発生がありました。

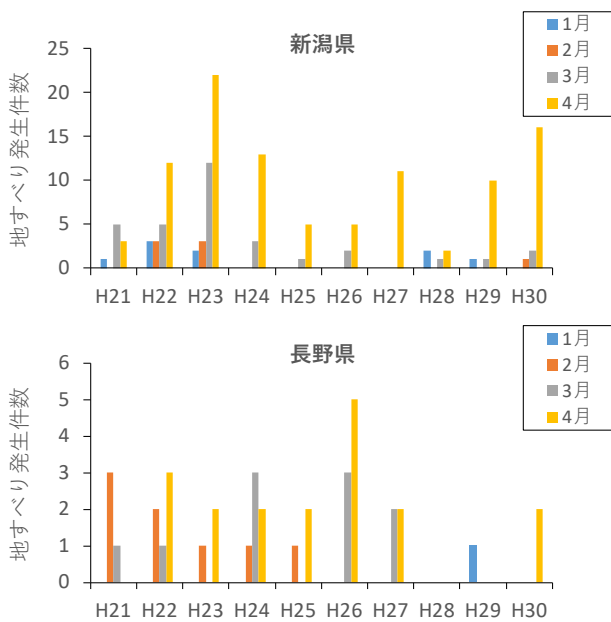


図1 1~4月の融雪地すべり発生件数の推移  
(新潟県・長野県砂防課調べ)

### 2. 今年の雪崩の発生状況

2017-18年冬期は日本付近に強い寒気が流れ込むことが多かったため、全国的に気温が低くなりました。寒気のピーク時には大雪となった地域もあり、日本海側を中心に多くの地点で最深積雪が平年を上回りました。この要因の一つとして、ラニーニャ現象の影響が指摘されていますが、3月以降は南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、気温が高くなりました。

雪崩災害は北海道、秋田県、新潟県、福井県、富士山の道路、集落、河川で発生しましたが(表1)、人的被害のあった災害は1件でした(表2)。

表1 2017-18年冬期の雪崩災害  
(新聞記事等から、道路、集落、河川での発生を整理)

| 発生日    | 発生場所           | 被災箇所      |
|--------|----------------|-----------|
| 12月21日 | 北海道赤井川村 国道393号 | 道路        |
| 1月31日  | 新潟県上越市牧 県道     | 道路        |
| 2月13日  | 福井県大野市 国道158号  | 道路        |
| 2月13日  | 秋田県泥湯温泉        | 集落        |
| 2月14日  | 秋田県仙北市 国道46号   | 道路        |
| 3月5日   | 静岡県 富士山        | (スラッシュ雪崩) |
| 3月9日   | 福井県大野市 国道158号  | 道路        |
| 3月9日   | 北海道美瑛町 辺別川     | 河川(雪泥流)   |
| 3月11日  | 北海道広尾町 国道236号線 | 道路        |

表2 2017-18年冬期の雪崩災害による人的被害  
(新聞記事等から人的被害のあった災害を整理)

| 発生日   | 発生場所      | 被災者     | 被災状況 |
|-------|-----------|---------|------|
| 1月20日 | 長野県小蓮華山付近 | スノーボーダー | 1名死亡 |

## トピックス

### ■砂防学会研究発表会

平成30年度(公社)砂防学会研究発表会「鳥取大会」が、5月16~18日に鳥取県米子市において開催されました。当センターからは金澤が参加し、地すべりに関する課題として、「溶存物質濃度の主成分分析による地下水流動の解析」についてポスター発表を行いました。

### ■雪水学会北信越支部研究発表会

2018年度北信越支部研究発表会が、6月2日に富山県立大学(富山県射水市)において開催されました。当センターからは秋山が「高精度空間情報による雪崩の発生規模の推定」、原田が「2017/18冬期に土木研究所で観測した雪崩について」と題して発表しました。また、秋山が「雪崩1」、原田が「雪崩2・利雪・克雪」のセッションで座長を務めました。

### ■合同研究発表会

新潟県妙高市において、7月11日に「平成30年度妙高地区治水砂防協会並びに雪崩・地すべり研究推進協議会合同研究発表会」が開催されました。



合同研究発表会では、秋山が「上越地域で過去134年に発生した雪崩災害について」、金澤が「雪崩・地すべり研究センターの地すべり研究について」と題して発表しました。

### 平成30年度の研究課題

今年度の研究課題は以下の7課題です。

#### ・雪崩部門

- ①短時間の多量降雪による雪崩危険度評価に関する研究 (主要研究 H28～31)
- ②雪崩の規模の推定手法に関する研究 (基盤研究 H27～30)
- ③雪崩対策施設の健全性指標に関する研究 (基盤研究 H28～31)

#### ・地すべり部門

- ①地下水排除工の効率的な点検手法及び定量的な健全度評価に関する研究 (重点研究 H27～30)
- ②地すべり地における地下水流動調査の高度化に関する研究 (基盤研究 H27～30)
- ③広域融雪水量推定に基づく斜面災害発生リスク評価に関する研究 (重点研究 H30～34)
- ④長距離移動する地すべりの発生条件と堆積規模・範囲の推定に関する研究 (萌芽研究 H29～31)

### 転入者あいさつ

#### ■上席研究員 秋山一弥

3月まで筑波大学大学院生命環境科学研究科(寄附講座・環境防災学)に出向していましたが、この4月に再び妙高での勤務となりました。センターの前身である新潟試験所で5年間、雪崩・地すべり研究センターには2年在職し、今回で3回目ですが、引き続き地すべりをはじめとする土砂災害や雪崩災害に関する研究、災害時の支援を推進する所存です。よろしくお願いたします。



#### ■交流研究員 石川泰裕

4月から交流研究員としてお世話になっている石川泰裕と申します。これまで、航空測量(DM, 航空レーザ測量等)の業務に携わってきました。今後は、融雪量推定等の研究に取り組んでいく予定です。これまでの経験やスキルを生かして、研究に携わりたいと考えています。2年という短い期間ですが、よろしくお願いたします。



### 平成30年度メンバー

上席研究員 秋山一弥  
主任研究員 原田裕介  
研究員 金澤 瑛  
専門研究員 上之和人  
交流研究員 石川泰裕  
非常勤職員 石川 茂  
非常勤職員 富里加代子  
非常勤職員 飯塚真理子  
非常勤職員 山本多加子  
運 転 手 早津 稔



### ニュートンのリンゴの木

写真は、7月11日のりんごの木の状況です。一昨年に骨格剪定などを行ったこともあり、花は咲きませんでした。樹の勢いを良くして、来年の春に花が咲くことを期待しています。



### 庁舎の表札

雪崩・地すべり研究センターの歴史は、昭和35年4月1日に建設省土木研究所の出先機関として、「新潟地すべり試験所」が新潟県新井市に設置されたことに始まります。当時は新井駅に近い朝日町1丁目にあった君の井酒造さんの倉庫を事務所として使用していましたが、昭和36年の末に現在の位置に1棟目の庁舎が完成して業務が開始され、昭和37年5月から道路関係の調査研究が加わったことから、「新潟試験所」と改称されました。

その後、平成13年に省庁再編で建設省が国土交通省に再編統合され、土木研究所は独立行政法人となりました。道路関係の調査研究がつくばに移管された後の平成17年4月には「雪崩・地すべり研究センター」と改称され、平成27年から国立研究開発法人へ移行して現在に至っています。

昭和37年から使用している庁舎を6月に点検していたところ、一室に当時の表札が保管されているのを偶然発見しました。新潟地すべり試験所の名称は2年あまりであったため、この表札が実際に使われた期間は短かったと思われませんが、現在の表札と並べて56年ぶり?に玄關に掲げてみました(図2)。



図2 設立当時の事務所(昭和35年5月～36年12月)と当時の表札

### お知らせ

次号(第81号)から、当たよりの発行は不定期(年1回発行)とさせていただきます。なお、過去の記事は以下のアドレスに掲載中ですのでご覧下さい。

[http://www.pwri.go.jp/jpn/about/pr/publication/nadare\\_tayori.html](http://www.pwri.go.jp/jpn/about/pr/publication/nadare_tayori.html)

発行:国立研究開発法人 土木研究所 つくば中央研究所  
土砂管理研究グループ 雪崩・地すべり研究センター

住所:〒944-0051 新潟県妙高市錦町2-6-8  
TEL:0255-72-4131 FAX:0255-72-9629 URL:http://www.pwri.go.jp

掲載内容は、現時点までの調査結果等に基づいています。今後の調査研究により、内容の一部または全部に変更が生じる場合があることをご了承下さい。

